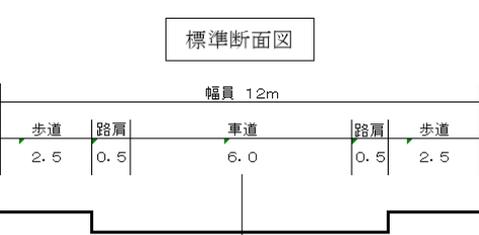


再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：長崎市 土木建設課
担当課長名：百崎 征臣

事業名	道の尾駅前線			事業区分	市町村道	事業主体	長崎市	
起終点	<small>ながさきけんながさきしいわやまち</small> <small>ながさきけんながさきしはやま1ちょうめ</small> 自：長崎県長崎市岩屋町 至：長崎県長崎市葉山1丁目					延長	0.20km	
事業概要	都市計画道路道の尾駅前線は、道路沿線地区の生活道路として整備を図るとともに、駅と幹線道路を接続することにより、駅施設の交通結節点としての機能強化を図る事業。							
H22年度事業化	都市計画決定 あり		H22年度用地着手		H22年度工事着手			
全体事業費	12.0億		事業進捗率		41.0%		供用済延長	0.11km
計画交通量	3,400台/日							
費用対効果分析結果	B/C		総費用		総便益		基準年	
	(事業全体)	1.10	(残事業)/(事業全体) 5.95/12.47億円		(残事業)/(事業全体) 14.08 /13.78億円			
	(残事業)	2.37	事業費：5.93/12.46億円 維持管理費：0.01/0.02億円		走行時間短縮便益：10.30/10.09億円 走行費用減少便益：3.38/3.31億円 交通事故減少便益：0.40/0.39億円		令和6年	
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施							
	【全体事業】交通量変動：B/C=(交通量 ±10%)			【残事業】B/C=(交通量 ±10%)				
	事業費変動：B/C=(事業費 ±10%)			B/C=(事業費 ±10%)				
	事業期間変動：B/C=(事業期間±1年)			B/C=(事業期間±1年)				
事業の効果等	・周辺道路とのネットワークの形成（交通円滑化）							
関係する地方公共団体等の意見	長崎市都市計画マスタープランに位置付けられている。							
事業再評価監視委員会の意見	-							
事業採択時より再評価実施までの周辺環境変化等	-							
事業の進捗状況、残事業の内容等	令和5年度末までの事業進捗率は41%で、用地進捗は84%と進捗しており、今年度以降協議を継続して行い、令和12年度の事業完成を目指す。							
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	地元や関係機関との協力体制のもと、今後も引き続き事業の進捗を図り、令和12年度の事業完成を目指す。							
施設の構造や工法の変更等	-							
対応方針	事業継続							
対応方針決定の理由	事業の必要性を考慮した場合、事業継続が妥当と判断される。							
事業概要図	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>位置図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>標準断面図</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>事業概要図</p> </div> </div>							

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。
 総費用と総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。

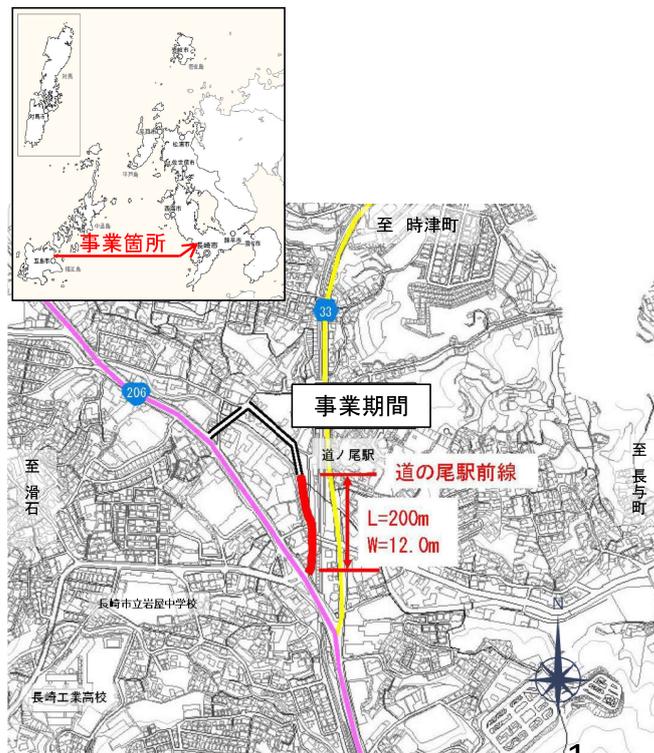
令和6年度 第1回 長崎県公共事業評価監視委員会

再評価対象事業

都政-1 街路事業
道の尾駅前線

事業主体 長崎市

再評価
の理由 再評価後5年経過



1

1. 審議経過

審議経過	再評価の理由	工期		事業費 (億円)	B / C	概要
		着工	完了			
当初 (H22新規)	—	H22	R2	12.0	1.18	【工事概要】 延長0.2km 幅員6.0(12.0)m
第1回審議 (R1年度)	事業採択後 10年経過	H22	R7	12.0	1.12	【当初評価からの変更概要】 用地取得手続き難航による工期延長
第2回審議 (R6年度)	再評価後 5年経過	H22	R12	12.0	1.10	【前回評価からの変更概要】 国道206号への接続の検討に期間を要 することによる工期延長

2

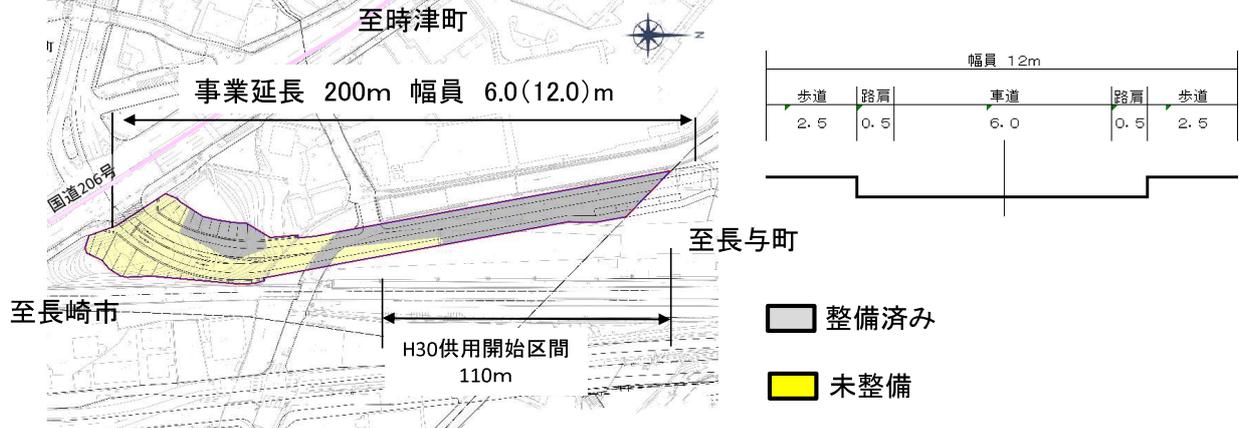
2. 目的・事業概要・これまでの経緯

目的

道路沿線地区の生活道路としての整備を図るとともに、駅と幹線道路を接続することにより、駅施設の交通結節点としての機能強化を図る。また、道ノ尾駅へのアクセス向上、及び良好な都市環境の確保を図るため整備するものである。

事業概要

・事業延長:200m ・幅員6.0(12.0)m ・計画交通量:3,400台/日 ・総事業費:12.0億円



これまでの経緯

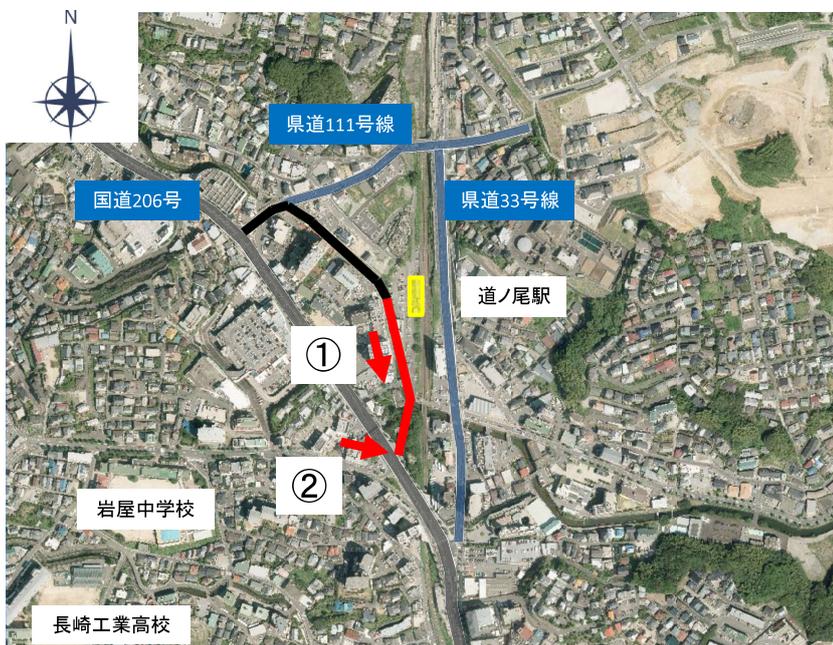
平成22年度:事業認可
平成22年度:事業着手
平成30年度末:約110m供用開始

事業進捗率 41%(事業費ベース)
用地進捗率 84%(面積ベース)

3

3. 事業の効果・必要性

本路線は都市計画道路や土地区画整理事業の進捗に伴い、道ノ尾駅周辺の交通量が増加することが想定され、周辺道路とのネットワークを形成するための整備を行い、交通円滑化と良好な都市機能を確認するものである。



①駅前道路が狭小



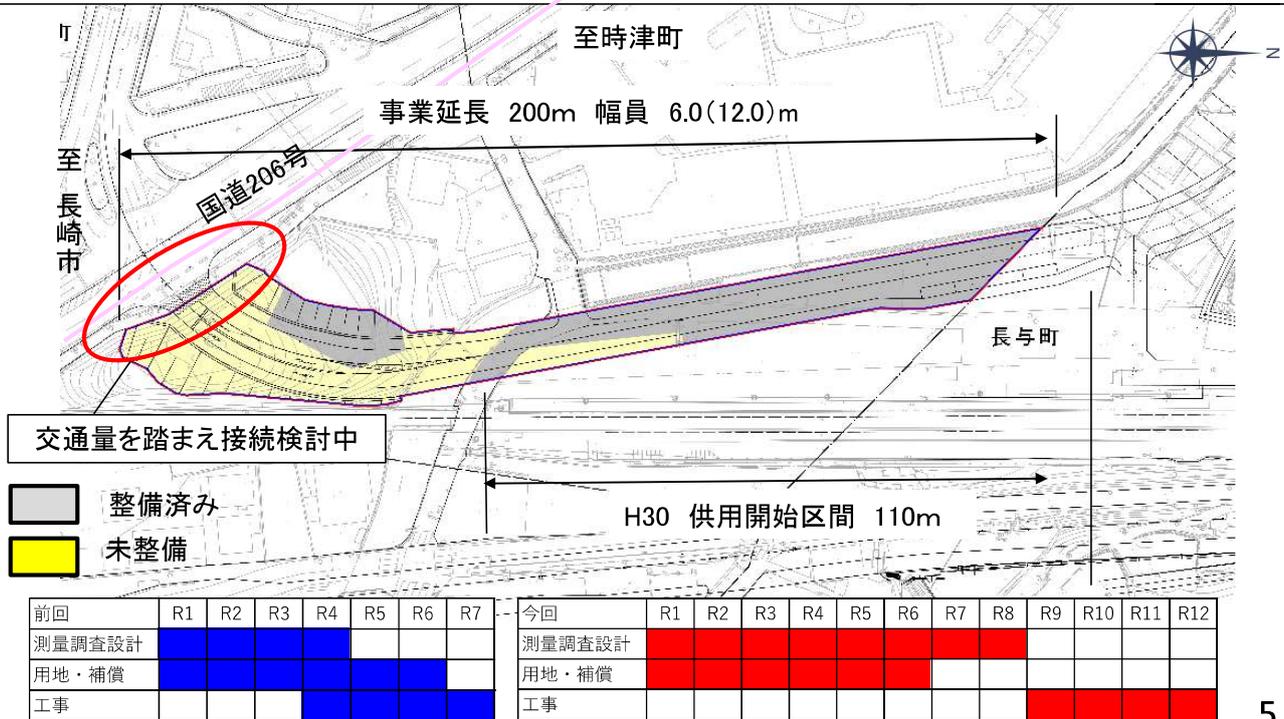
②道ノ尾駅周辺道路へのネットワークの形成

4

4. 事業の進捗状況(事業期間の見直し)

【完了工期】 R7(1回目変更)→R12(今回変更)

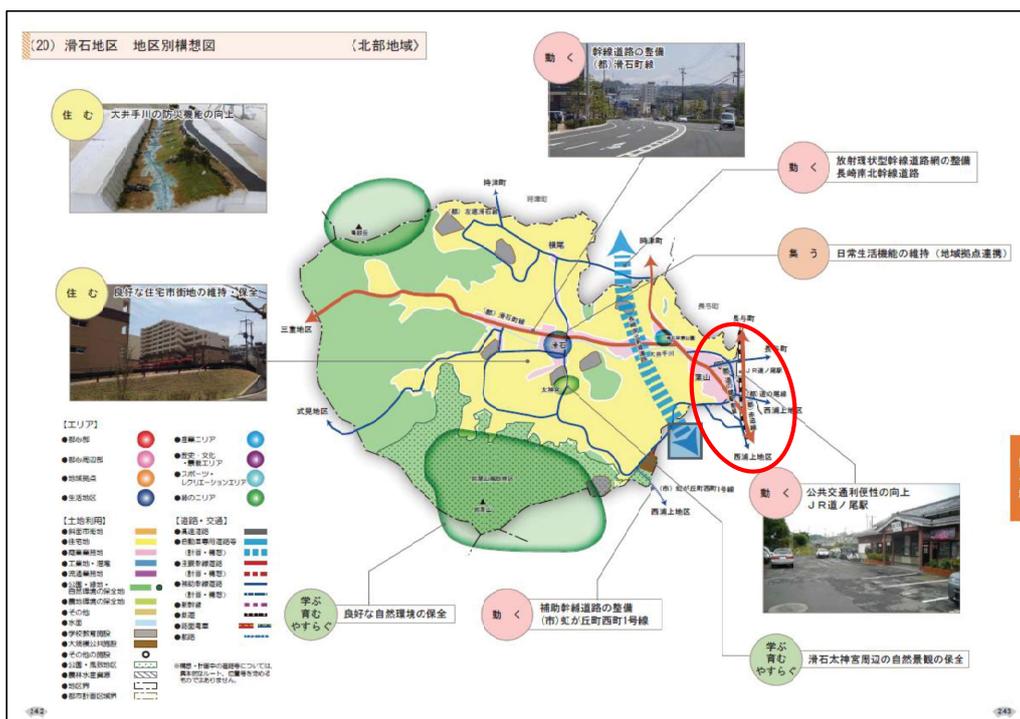
- ・未整備箇所は鉄道近接工事となるため、維持管理を考慮して事業の最後に実施する
- ・国道206号への接続の検討に時間を要している



5

5. 上位計画への位置付け・関連事業の状況

- ・長崎市都市計画マスタープランにおいて、道ノ尾駅の交通結節機能強化による交通利便性の向上を図るため、都市計画道路道の尾駅前線を位置付けている。



6

6. 事業の投資効果

◆ 費用対効果(B/C)

項目	前回評価 (令和1年度)	今回評価 (令和6年度)
残事業	2.37=13.57億円/5.72億円	2.50= 13.78億円/5.52億円
全事業	1.12=13.57億円/12.15億円	1.10= 13.78億円/12.47億円

〔費用〕

- ・道路整備に要する事業費(工事費、用地費)、道路維持管理に要する費用

〔便益〕

- ・走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事故減少便益

〔マイナス要因〕

- ・事業期間の延長(国道206号への接続検討)

〔その他の要因〕

- ・費用便益分析マニュアルの改定(マイナス要因)

7

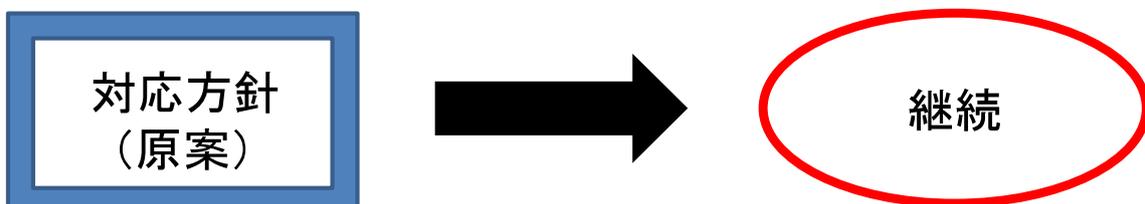
7. 対応方針(原案)

◆道路沿線地区の生活道路としての整備を図るとともに、駅と幹線道路を接続することにより、駅施設の交通結節点としての機能強化を図る。また、交通混雑の解消や道ノ尾駅へのアクセス向上、及び良好な都市環境の確保を図るため整備するものである。

◆事業進捗率は事業費ベースで約41%であり、用地進捗率は面積ベースで約84%となっている。

◆代替案の可能性はないため、可能な限りコスト縮小を図る

◆事業期間の延長となるものの、費用対効果は見込まれる。



8